

第1回まちづくり懇談会 議事要旨

日 時：平成27年6月3日（水）午後2時～午後3時

場 所：市役所9階 第2応接室

出席者：船橋市長 松戸 徹、船橋市PTA連合会（以下「団体」）

テーマ：「子どもを守るまちづくり」

1 懇談内容

【団体】

今日、「子どもを守るまちづくり」について、全て子どもたちの安全や防犯にかかわることである。まちづくりにかかわるならば、子どもたちの安全とかそういうことに私どもが取り組むことで、地域が強くなるだろうということ。そうすると、子どもたちの安全を確立したような地域、これは強いまちづくりにつながっていくとも言えるのではないかと考えており、日々の気がついた点を一つずつ丁寧に解決していくことが私たちの任務である。

(1) 登下校の安全について

【団体】

子どもたちの登下校の安全を確実なものにさせるためには、学校ごとに違う事情があるなかで、保護者のパトロールや、スクールガードに協力していただいている。

そのおかげで、子どもたちの登下校中の事故は減っているが、子どもを想う親の目線からするとこれで十分ではないと言える。

そのような中で、これは船橋全体のPTAが結束してやるとできることが多々ある。

それとともに、行政や、他団体と連携することが非常に大事だと思っている。

また、PTAは親だけでなく教員もおり、親の思いとして「もっともっとよくしたい」という気持ちを酌んで、さらに協力体制をとっていただきたいと考えている。

【市長】

スクールガードの役割は非常に大きく、子どもたちを安全に見てもらえるということと、地域を意識する上では非常に大事な役割になっている。

スクールガードの協力は欠かせないので、今年、スクールガードを指導するスクールガードリーダーを1人増員し、スクールガードの活動をより専門的にできるよう取り組んでいる。

今、教育委員会で、防犯ブザーは就学前1年生になる子に配っているが、防犯ブザーの使い方をもう少し子どもたちに教えてあげたほうがいいというのはあるので、教育委員会と考えていきたい。

親から見て、子どもたちの登下校で一番心配な部分はどこか。

【団体】

このところ、学校では、登下校の安全マップをつくって、それを子どもの視点でどこが危ないかというのを、例えば宿題などで「親と一緒に歩いて、自分の目で確かめてみよう。」といった取り組みをしている。親は、なるべく子どもと一緒に参加することで、子どもが登下校で遊んでいるところが、はたから見て危険な箇所であることを指摘することができる。子ども、親、相互の意識を少しでも高めようと努力している学校が増えている。

【市長】

登下校の安全の中でも、交通安全について話をしたい。

ご承知のように船橋市の道路事情がなかなか改善できていない。

道路改良をしようと思ってもなかなか用地買収ができない中で、今、「ゾーン30」を市としてやっていこうと思っている。

学校からの要望もあるが、さっき言ったように所有者の方の理解をもらえないときもあるので、優先順位付けをしていきたい。

P T Aの中でも、この辺はちょっと改善してほしいというのがあったら、ぜひ言っていただきたい。

【団体】

よろしくお願ひしたい。

(2) ひまわり110番について

【団体】

「ひまわり110番」は、船橋市においては全国に先駆けてP T Aが音頭をとってやらせていただいたという歴史がある制度であり、とてもいいことをしていると同時に、子どもたちもみんなよく知っている。

ただ、1つあるのは、市内全域81校あって、その中にP T A連合会に加入しているところが67校。

P T A連合会としては、加入していないところの学校、子どもに対しても、ひまわり

110番制度については窓口になっている。

そのような中、各学校のPTAが中心になって、地域のひまわり110番を説明したり、いろいろな案内をしたり、要はそこで支えていただいている部分があり、年間を通して、ひまわり110番にかかわる時間がかかなり多いはずで、もちろん一生懸命子どもたちのためにやるべきことなので、今後も継続していきたい活動、継続していかなくちゃならないことだと考えている。

ただ1つ問題があり、事務的な部分が煩雑になってきていて、各学校にも負担がかかっているし、PTA連合会でも事務局の中でかなりのウエートを占めてきている部分もあるので、こういった点、もし可能ならば、もっとひまわり110番制度というのを広げていくためにも、行政のほうでもさらに協力をしていただけると非常にありがたいと同時に、より一層魅力ある活動ができると思っている。

【市長】

PTA連合会の歴史の中でも「ひまわり110番」のプレートを作るなど継続して取り組んでいることであり、そこに少し行政がサポートすることで、うまく回るのであれば、検討させていただく余地はあると思う。

ただ、基本は、皆が頑張ってきたものを崩さず、「頑張っている中でも、この部分をサポートする。」という方が、長い目で見るといい気がする。

【団体】

おっしゃるとおりだと思います。

ただ、すごく長い歴史があり、我々で始めたという自負がある半面、この先ずっと継続していくことに対して、不安も持っていることも事実である。

【市長】

承知した。

ひまわり110番の取り組みで、海神南小学校が親子ウォークラリーイベントで日本PTA会長賞をもらった。

私も、最初話を聞いたときにとっても面白い取り組みだと思った。

ウォークラリーの中でひまわり110番の家を訪問することで、家に入ったことがない子どもたちがいなくなる。

だから、「ひまわり110番のプレートのある家には行っていい。」という意識を子どもたちに持ってもらうために、すごく効果的な取り組みだと思う。

【団体】

あとは、継続していくことが大切。子どもたちは卒業し、また新入学生が入ってくるのでその都度やっていくことが大事だと思っている。

また、広報で扱っていただいたりすると、モチベーションも上がる。

【市長】

行政も、こういった取り組みは取材させてもらおうと勉強になる。

市民の皆さんやPTAがこういった活動をしていることを知ることも、行政の職員にとっては大事なことなので、良かった。

【団体】

地域の防犯活動については、先ほど市長からスクールガードを増員するという話をいただいたので、今後さらに連携を深めていきたいと考えている。

【市長】

あとは、自主的な団体の活動に、いわゆる団塊の世代が入ってもらえていないというところが今、問題である。

スクールガードで言えば朝・夜があるので、いわゆるPTA連合会世代の人たちがなかなか入れないのと同時に、60代半ば過ぎの人の参加率が非常に低い。

【団体】

人が集まらないという話は、いろいろなところで聞く。

一部のPTAで、わりと若い世代（40代とか50代ぐらいの人）でもできる人がいればということで取り組み始めたというのは聞いている。そうやって少しずつでも増やさなければいけないと思う。

【市長】

子どもたちの防犯に限らず、まちづくりにおいても深刻な悩みになっている。

活動してくれる人がいるので、範囲を広げようとすると、各地区で人の確保が必要になる。おやじの会ぐらいの世代の男の人たちの意見も、ぜひいろいろ聞いてみたい。

【団体】

組織としてお父さん世代を動かすのは大変だが、少なくともPTAで子どもが小学校、中学校に通っているお父さんに、もう少し関心を持ってもらい、会社の行き帰りだけでも、「何かおかしいことはないか」「こんなに遅いのに子どもが出歩いていないか。」といった目配りをするだけでも、大いに効果がある。

PTAの会員は、4万近くの世帯がいるので、そのうちの1割のお父さんでも、興味

を持って、通勤・帰宅途中に、ちょっと見る視点を変えるだけで、大きく変わってくるのではないかと思う。

【市長】

そう思う。

【団体】

ぜひともそういった取り組みをしてみたい。ちょっと関心を持つだけで大きく変わる。

【市長】

これは子どもたちの防犯だけでなく、その辺のことをどうしたらいいかというのは、みんなで知恵を出し合う場所をつくったほうがいいと思っている。

【団体】

また、市長は、商店街や、団体のおつき合い、業種ごとのおつき合いなんかも精力的にお顔出しいただいている。

ひまわり110番に関しても、自分の子どもがいる家庭は協力的だが、店舗でも、活用したいところが多々ある。ガソリンスタンドやコンビニエンス、現状として、協力してくださっているが、浸透していない。

「町全体で安全をつくろうよ。」と市長がお声掛けいただけると、そういった店舗のオーナーさんたちも乗り気になってくださって、従業員さんにまできちんと伝えていただいて、さらに安全な形をつくってもらおう。

今、市長自らが架け橋となって船橋全体をつなげようという意識がすごく伝わってくるので、その中に少しでも取り入れてもらえるとありがたい。

【市長】

人と人がつながっていくのはおもしろい。

今、店舗の話が出たので、例えば商店街の話でも、結構、まちゼミとって「だしのとり方」を居酒屋の店長さんが、講座としてやっている。

こういった取り組みはおそらく、地域のPTA、PTA連合会までなかなか思いが及ばない。行政自体も縦割りにならないよう気をつけなければならないが。

そういった取り組みをPTA連合会に紹介して、地域の商店街と結びつけるということは、あると思う。

そうすると、双方の協力体制や理解が強まると思う。

【団体】

PTAの組織が大きいことは確かなので、他団体との連携や、PTAの組織をどんど

ん活用していただければいいと思う。

私どもからこういうことをお願いします、ああいうことをお願いします、これはどうですかということは今までもやってきているので、行政からも、こういうことをできないかというようなことを言うていただければ、少なくとも小中学校には、かなり瞬時にいろいろな情報がおりによっている。

【市長】

承知した。

(3) 交通安全の取り組みについて

【団体】

先日（6月1日）、道路交通法が改正され、まさに旬の話題ではあるのだが、今になって始まった話ではなく、子どもたちに交通安全、特に自転車については、近年その加害者側の負担が大きくなるということで、問題になってきている。事故も後を絶たない。

現在、中学生、高校生向けには船橋市からマニュアルをつくっていただいて配布されているということを伺っている。

今回、ぜひ考えていただきたいのは、小学校のうちから、自転車に関する交通マナーについて指導していただく機会をもって、行政として何かやっていただきたい。

中学生、高校生になっていろいろな指導を初めて受けるより、小学校のうちから知っていると、子どもたちが中学生、高校生になったときに、自分より年下の子どもたちに教えることもきっとできる。そうすることで早いうちからしっかりと交通安全に対する意識がつかれる。

もちろん、家庭でもやらなきゃいけないことだと思っている。家庭でいったら、保護者がマナーを守れない場合もあるので、こういうことについてはPTAがしっかりと、保護者をサポートしていきたい。

単純に、自転車はどうやって乗るか、だけでなく、そういう意識をみんなに植えつけて、育てていくということでは、学校の勉強と同じくらい大事なことだと思っている。

ぜひ、小学校低学年くらいからそういう指導をするような機会を設けていただきたい。

【市長】

結構、交通安全教室は小学校でも、幼稚園でもやっているところはある。

その辺は交通安全協会などいろいろ協力してもらってやっており、例えば自転車の乗り方など、学校の事業と繋がっていない取り組みをする地域もある。

現在の状況を教育長と話してみるが、道路交通法の改正で、子どもの自転車の交通マナー、とりわけ今までのように好き勝手に乗れる時代ではないので、どういった方法があるか、確認をしてみる。

去年、一昨年か、中学生と地域の高齢者の方がぶつかって亡くなった事故があった。

あのときの状況を聞いて、スマホか何かを使用している最中にぶつかったと思ったのだが、ほんとうに不幸だ。

同じ地域に住んでいて、ある程度顔見知りの子どもと、まだ若い高齢者が亡くなっちゃうと、地域が壊れていくような感じのところがあり、あまりにも辛い。

また、スケアードストレートだが、これはPTAにも要望が多いのか。

私自身が聞いた限り、迫力があり過ぎて、刺激が強過ぎるので、中学生ぐらいからのほうが良いという意見もあるみたいなのだが。

【団体】

スケアードストレートでなくても、調べると様々なワークショップがある。

私が調べたのでは、全部スポンジでできている安全な電気自動車があり、実際にひかれてみることで発見や、運転して何が危ないかわかるなど様々なものがある。

様々な取り組みを様々な組織で試験的に取り組んでみることで、効果が期待できそうなものが見つかったら、前面に押していくこともありだと思う。

前は交通安全教室をやっており、小学校に入ると、信号機を使って自転車の乗り方講習を行ってくれていた。それが、ある年からできなくなった。そういった学校もある。

その学校では、しばらくPTAが中心になってやっていたが、ついにやらなくなってしまった。そういう学校もある。

ずっとやっているところもあったり、PTAがそれを支えているところもあったりするので、全域で同じ形でできないのはたしかだ。

できれば、市内全域の小中学校でやれよというような呼びかけがあるといいと思う。

【市長】

勉強させてほしい。いいものがあれば、それにちょっと工夫を凝らして形にしてみたいと思う。

(4) その他

① 教育行政について

【市長】

P T A 連合会から見て、これからの教育行政というか、こういうところにもうちょっと力を入れてほしいということはあるか。

【団体】

例えば、英語を小学校1年生でやるなど、教育についてはすごく進んでいると思う。

船橋市の教育基本計画にも参加させていただいて、様々なことが見えるようになっている。ただし、P T A 連合会として悩みの部分というところ、船橋は広くて大きくて学校数も多い。

そうすると、P T A 連合会として多くの学校を抱えるので、地域によって事情が違う。少人数のところもあれば、逆に規模が大きくなり過ぎていているところもある。

P T A 連合会としては、それに一つ一つ話を聞いていくことは大事だと考え行っているのだが、答えが出ないところが多々ある。

当然、教育委員会としても課題だと思う。しかし、何らかの答えを出していかないといけない。その為、様々な面で、短期、中・長期的な善処策を講じていく必要があると思う。

【市長】

学習面でいえば、例えば電子教科書などが提案されているが。

【団体】

保護者からすれば、教育に関する情報は欲しいと思う。

例えば、保護者にとって「来年こうなるよ。」とか、「2、3年後にこうなるよ。」といった情報は、正確な情報が前提であるとともに間違いなく必要なもの。

それと同じように、今、教育として市ではどういうことを考えていたり、それは広報を見たり、ホームページを見ればわかるが、知る手段というのは、自分で調べて、こうなのかな、ああなのかな、なので、そういうところまで、実はP T A 連合会としては説明しきれない部分がある。

【市長】

P T A と教育委員がやりとりする場はあるか。

【団体】

ない。

【市長】

市長の教育にかかわる立場がかわり、仮ではあるが総合教育会議をやるつもりである。教育委員の人たちは、教育に対してものすごく真剣に考えて、いろいろ知ろうとしながらやっているのだから、教育委員の人たちとPTA連合会の懇談会も良いかもしれない。

【団体】

ぜひ、やってみたい。

【市長】

教育委員は、教育者ではないから現場のことはそんなに詳しくないが、理念としての教育に対する思いは非常に強い。

現場の状況とか学校の地域とかということのディスカッションをするのは、教育委員のためにもすごくいいかもしれない。

【団体】

私たちが、すごく勉強になると思う。

いろいろな情報を吸収することは、すごくいいことだと思う。

【市長】

現教育委員で、千葉工大副学長の鎌田先生は、まちづくりの専門家。

例えば、PTA連合会の講座で招いて、教育についても含めながら話をしてもらうなど、やり方はいくらでもあると思う。

② スクールカウンセラーについて

【市長】

教育長と現場の話を聞くと、スクールカウンセラーの需要は高い。

今年、多少増員し、さらに体制の強化があったほうがいいと思っているが、PTA連合会の中でスクールカウンセラーについて話すことはあるか。

【団体】

スクールカウンセラーは、結構利用されているという話は聞くが、カウンセリングを受ける内容についてはデリケートな問題でもあり、触れることができないので話としてはほとんど上がってこない。

【市長】

個別具体的な相談は別にしても、こういう相談もできるとか、相談というと何か思い詰めて行くみたいなイメージがあるが、決してそうじゃないのもある。

スクールカウンセラーは、子育て相談そのもの。先生に聞けないが、昔と違って今の、小学生とか中学生の子どもを持っている保護者、お母さんが、どう接していいかわからないというのもあり。

【団体】

おそらくそういう利用の仕方があるとは、あまり知られていない。

【市長】

「自分の子どもの変化に親として対応しきれない・・・とはいっても学校の先生に聞いても先生は若くてわからないだろう。」という中では、そういう相談する方もいる。

そうすると、スクールカウンセラーは、臨床心理士などの専門家なので、カルテをつくってくれるカウンセラーもいる。

それを今度、学校の先生を橋渡しにして、先生とお母さんとカウンセラーで連携して、子どもの変化に順応していきましょうといったこともできる。

【団体】

相談を受けることに、後ろめたさを感じるイメージがあるので、できればうまく、船橋市の広報などで、カウンセリングの先生方から簡単な説明などを入れていただいて、載せていただきたい。

そうすると、アナウンスするときに「船橋市の広報に載っているのでよく読んでごらん。」と言えるようになる。

【市長】

なるほど。少し敷居が高い気もするが、そういう利用の仕方もある。

【団体】

カウンセラーに対しての位置づけが、おそらく皆の中で違うと思う。それを取っ払わないと活きないと思う。

【市長】

先ほども言ったようにスクールカウンセラーは、いじめのケアなどが前面に出ているほか、相談に行くと言うと何かあったのかといった雰囲気にもなる。

本当は、もっといろいろな利用の仕方がある。

学校によっては、子どもたちを普段から部屋に來させており、その部屋に子どもが行っても、誰が見ても不自然じゃない状況をカウンセラーがつくってくれている。

今、比率としては先生と子どもが一番多い。

先生は、不登校になった子どもとどのように接触していいかわからない。また、不登

校の子どもの保護者のところに行ってもなかなか素直に心を開いてくれない。

カウンセラーはそれに対してカルテみたいな形で、こういうケースの場合はこういうことがあるので、こういうアプローチがいいのではないかと。といったアドバイスを助かっている先生が多い。

【団体】

卒業生がまた相談しに行くのはいいか。

【市長】

良いのではないかと。

継続の必要性の有無もあるし、時と場合による。

【団体】

子どもにとっては、そのカウンセラーを信じているので、卒業したら中学校のカウンセラーに行くのは辛いと思う。

【市長】

これはいいことを聞いた。

中学校から高校だとながっていないので、また来てもいいと言うが、小学校から中学校の場合、その中学校での関わりが薄くなってしまっているので、関わり方の難しさは多分あると思う。

ただ、カウンセラーの場合は、たしかに相性みたいなのがあって、そこでカウンセラーの方に同じことを言われても素直になれないときはあるかもしれない。

自然に、こうやってしばらく雑談しているといろいろなことが出てくる。

【団体】

そう思う。

③ シルバーリハビリ体操について

【団体】

単独PTAという単独の立場じゃなくて、市長の活動の中でも、コミュニティごとのいろいろ連携がある。その中に学校とか市民が基軸になってくる。

PTA連合会はその中の一角でお手伝いをさせていただいているという位置づけになる。

例えば、市長からも、「こういったことをP連でできないか。」というお話をいただく関係でありたいと思っている。

【市長】

今、船橋で「地域包括ケアシステム」という、要するに高齢化に向けての取り組みを行っている。

地域包括ケアシステムの中で、高齢者へのケアを行うということは、働く世代の人たちのサポートになるということを知っていただきたい。

そこで、高齢者の健康寿命を延ばす体操として、「シルバーリハビリ体操」をこれから広めようとしている。

そういった意味では、時間のある方がいたらそういう取り組みを広めてほしい。

P T A連合会の仲間が知ることで、近所の高齢者を誘うようなつながりを持つ可能性も出てくると思う。無理にとは言わないが、皆で一緒にやればと思う。

【団体】

ぜひお願いしたい。本日は、ありがとうございました。